

# 歴史散歩



## すごう 須郷の里と不動滝

J R名松線の終点駅・伊勢奥津駅から南に進み、伊勢本街道に入ると、家々に掛けられた屋号などを示したのれんが、訪れる人を温かく迎えてくれます。街道を東に進み、雲出川を渡る宮城橋を越えると、今年4月に津市景観計画の重点地区に指定された須郷の里に入ります。

やがて、右手にイチヨウの木が見えてきます。その下の祠には地元で「おんばさん」の愛称で親しまれる延命地蔵菩薩があり、周辺には地蔵菩薩をはじめ石造物が複数並び、古いもので天和4(1684)年、元禄4(1691)年と記された供養碑などがあります。延命地蔵菩薩は、江戸時代、この地の庄屋が子どもたちをはやり病から救おうと祭ったのが始まりといわれ、百日咳に御利益があるとして、かつては大阪府や兵庫県などからも参拝客があったそうです。毎年8月23日の地蔵会には、地元の人々による邪気払いの「山へ行け、川へ行け」の唱和とともに数珠繰りが行われます。



おんばさんの数珠繰り

さらに街道を東に進むと、左手に地元で「札場跡」と呼ばれる高札場の跡が見えてきます。高札場とは江戸時代から明治時代初期にかけて幕府や政府の法令などを掲示して、地域の人々や街道を行き交う多くの人にこれらを知らせるための場所でした。



札場跡

札場跡から街道をさらに東へ進み、不動滝の案内板を右手に曲が



不動滝の男滝と女滝(右)



り、雲出川の支流沿いの山道を800mほど進むと、大小の滝が見えてきます。これは不動滝、別名夫婦滝(大きい方が男滝、小さい方が女滝)と呼ばれ、周囲は澄んだ空気に包まれています。男滝のすぐ下流の山腹にはいつ頃からか石造の不動明王が祭られています。無病息災を祈願したそうで、今も地域の人々により守られています。

爽やかな秋風の中、豊かな自然と伊勢本街道のまち並みが残る里を散策してみてもはいかがでしょうか。

